

科目名	畜産	単位数	3単位	学科・学年	畜産総合 科 3年
使用教科書	畜産（農文協）			副教材等	
学習目標	<p>家畜の飼育や経営に必要な知識と技術を修得します。家畜の特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てることを目標に取り組みます。1年から3年生まで分割履修になっているこの科目では、各学年で主に学習する家畜を定め、3年生においては酪農を中心に据えた学習を行います。</p>				
学習評価	○ 次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。				
	①関心・意欲・態度	動物(家畜)に対する興味関心が強く管理も適切に行える。遅刻や欠席がなく授業に参加している。集団のなかで協調性を持って堅実な取り組みができる。			
	②思考・判断・表現	畜産全般に理論づけて理解できているか。ノートは自分が分かりやすいように整理されているか。			
	③技能	動物に積極的に関わり、扱いにも長けている。			
	④知識・理解	学習した内容が自分のものとして身に付いているか。実際の現場で学習した内容が活かされているか。			
		評価方法\観点	①	②	③
学習状況観察		◎	○	○	◎
プリント教材		—	—	—	○
ノート提出		◎	○	○	○
定期考査		—	○	◎	◎
※表中の◎は観点の中でより重視するところです。					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 動物の習性や飼養管理技術を総合実習とも絡めて体験的に学習する機会も多いです。 定期考査や各種提出物のほか、授業態度など取り組む姿勢も評価します。 				

学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)
1	4	酪農 1 乳牛の特性	7	乳牛の特徴を学習し、食資源として有効な動物であることを理解する。	牛の各部名称を覚える。 (小テスト実施) 反すう回数の調査。
	5	2 品種と改良 3 飼育方式	7 7	牛の起源、品種を学習し酪農の歩みを学ぶ。 牛舎の構造や環境について学習する。	パワーポイントを活用し乳牛の種類と品種別の特徴を理解する。
	6 7	4 消化・吸収と飼料給与	16	飼養管理と乳量・肉質の関係を考え適切な飼養方法を知る。 飼料の種類とその栄養成分を理解する。 粗飼料の適切な調製方法を理解する。	体重測定と資料摂取量調査を実施し、発育生理を実際に知る。 粗飼料・濃厚飼料の種類と栄養価値を知る。 乾草・サイレージ等の飼料調製の実習を行う。
2	9	5 繁殖生理と交配・分娩	12	牛の生殖器の働きを知り、それぞれの時期に見合った飼料給与方法と発情の見極めができるようにする。	直腸検査や分娩の介助などを実施する。
	10	6 泌乳の生理と搾乳	10	乳房の仕組み、泌乳の仕組みを学習する。ホルモンとのかかわりを学習する。	実習での搾乳との関連性をもって理解を深めさせる。
	11	7 泌乳牛の飼養管理	10	飼料管理と乳質・乳量の関係を理解する。	簡単な配合設計方法を事例をもとに計算を行う。 乳質調査を行う。
	12	8 衛生と病気	8	健康観察の要点と適切な健康管理できる能力を養う。	牛を使つての検温を実施する。
3	1	9 牛乳の品質	8	牛乳の規格、処理、加工について学習する。	食卓に上がるまでのプロセスを知る。
		10 経営とその改善	8	乳価の変動の特徴や流通方法について学び経営診断のできる能力を養う。	環境学習と共に経営を学ぶ。
その他	4 ～ 1	家畜審査を取り入れた学習	12	家畜審査標準・ボディーコンディションスコアを活用し、乳牛個体の良し悪しを判別できる能力を養う。	家畜審査競技に向けた取り組みを行う。実際の牛を利用し、各部位の特徴を把握する。 外部講師を招いた学習を2～4時間行う。 【評価方法について】 評価方法の項を参照
			105		